

vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

12

DECEMBER
2010

CONTENTS

新ダヴィッド同盟.....	1~2
クリスマス・プレゼント・コンサート.....	3
SELF PORTRAIT	
中村真由美 ピアノ・リサイタル.....	4
スターライトファンタジー.....	4
水戸の街に響け! 300人の《第九》2010.....	4
最近の公演から.....	5
インフォメーション.....	6



写真上左: 庄司紗矢香 photo: Balazs Borocz and Pilvax Studio

右: 小菅優 photo: Steffen Janicke

写真下左: 佐藤俊介 photo: 武林久憲

中: 磯村和英

右: 石坂団十郎 photo: Marco Borggreve

新しい専属楽団がいよいよ始動! その名は「新ダヴィッド同盟」!

● 12/22(水) 新ダヴィッド同盟 第1回演奏会

メンバーからのメッセージ

今回私の尊敬する室内楽の仲間と水戸で集まれることをとても嬉しく思っています。

参加をお願いすることになった4人とは、それぞれと色々なご縁で出会い、共演をはじめ長いお付き合いですが、5人揃っての共演は初めてです。私の大好きな水戸芸術館と、恩師・原田幸一郎先生から新しい室内楽アンサンブル立ち上げのお話を伺った時、「世界で活躍する日本人演奏家でクインテット」という事で一番に思い付いたのが、この仲間です。それぞれ、パリ、ミュンヘン、ニューヨーク、ベルリン、ザルツブルクを拠点に旅を続けている私達が、水戸に集まれることは、大きな喜びです。なぜなら、いつも慌ただしいスケジュールで動いている私達は、音響、環境共に室内楽に最適なホールの「舞台上」で「思う存分」室内楽のリハーサルをできる機会は、実のところ、なかなかないからです。私個人にとっては、心の通じた仲間と室内楽を学べる稀な機会です。

プログラムは、「古典と現代」を基本に、室内楽の経験が特に豊富な磯村さん、団十郎君に意見をいただきながら、皆で吟味し、話し合っ決めてきました。

そして、新時代の理想を追求する音楽家の象徴として、また、今年シューマンの生誕200周年ということも重なり、私達は吉田秀和先生より「新ダヴィッド同盟」と命名頂きました。

皆さんに楽しんでいただけたら、嬉しいです。

庄司紗矢香

室内楽をやる事において良いメンバーに恵まれることほど音楽家として幸せなことはありません。今回のような長期的なプロジェクトに参加する事になり、メンバーとは以前から共演した事もあるだけではなく友人達でもあるので、とても楽しみにしています。公演を重ねるごとにアンサンブルとしての絆が深まり、進化していく私達を皆さまに温かく見守って頂ければ大変嬉しく思います。

佐藤俊介

私共は、「新ダヴィッド同盟」という立派な名前を頂いて、今年のクリスマス前に、新しい室内楽のグループをスタートします。

他のメンバーの方は、皆若く、大変な才能の持ち主です。彼等は、日本人と言うより、日本に愛着を持つ地球人という感じで、多くはヨーロッパに住み、世界中で演奏活動に励んでいます。そんな仲間が一年に一度、水戸芸術館に集い、室内楽のユートピア（理想郷）を築こうと企んでいます。

室内楽の魅力は、やはりレパートリーの豊富さ、奥の深さではないでしょうか。そしてもう一つは、演奏者間の音楽を通しての、緊密な対話にあると思います。

音楽愛好家の皆様、もしコンサートに来てくださったら、居間にいるような感じで、その対話に加わり、室内楽に浸る喜びを我々と一緒に体感してください。そして、「新ダヴィッド同盟」を育ててください。

ハロウィーンを間近に控えたニューヨークにて

磯村和英

私たちのアンサンブルは「新ダヴィッド同盟」と命名されました。これは作曲家シューマンが新しい音楽の理念を実現しようと名付けた「ダヴィッド同盟」から来たものです。

私たちのアンサンブルはこの精神を受け継ぎ、音楽演奏の新しい方向を考えようという事で実現しました。ですからシューマンの作品だけを演奏するのではなく、「ダヴィッド同盟」に属したといわれるベートーヴェンの作品も演奏いたします。

そして「ダヴィッド同盟」の中心に、理念の異なる人物、フロレスタンとオイゼビウスがいたように、コンサート・プログラムをご覧になればお分かりのように、私たちも「ダヴィッド同盟」が受け入れた異なる理念の作品も紹介していくつもりです。

とくに「新ダヴィッド同盟」は、新しい事象に対して開かれた純な心、芸術と向き合う純な心、しかしながら音楽への果敢さ、音楽との連帯感等も失わないつもりです。

私は「ダヴィッド同盟」メンバーの精神を、すばらしい音楽の演奏で生かせればと、とても楽しみにしています。

石坂団十郎

私のとても尊敬している音楽家の庄司紗矢香さんに声をかけていただき感謝です。こんなに素晴らしいメンバーと毎年共演できるなんて夢のようで、楽しみでなりません。

水戸芸術館にはこれまで何回もお世話になっておりますが、室内楽をするのに最高の環境、音

響、知的なスタッフの方々に囲まれ、水戸を第2の故郷にしたいくらい大好きなホールです。

紗矢香さんと俊介君とは何回か共演させていただいていますが、二人ともとてもユーモアがあってユニークなので舞台上でも舞台裏でも一緒にいて楽しい仲間です。磯村先生と団十郎さんとは初顔合わせです。新しい音楽作り、アイデアを吸収して勉強させていただけることをとても楽しみにしています。

私たちの新たな冒険が始まります!皆様、是非お見逃しなく!

小菅優

「新ダヴィッド同盟」、いよいよ活動開始!

水戸芸術館館長・吉田秀和の命名により誕生した新しい専属楽団「新ダヴィッド同盟」が、いよいよ本格的に活動を開始します。日本を代表する若きヴァイオリニスト、庄司紗矢香が中心となり、彼女の呼びかけで集まった音楽仲間たち——佐藤俊介(ヴァイオリン)、石坂団十郎(チェロ)、小菅優(ピアノ)といった国際的に活躍している若い精鋭演奏家たち——がメンバーとして参加します。また、アンサンブルの要として、1969年の結成当初から東京クワルテットのヴィオラ奏者を務め、庄司も尊敬している室内楽のベテラン・磯村和英もメンバーに名を連ねました。この5人の名演奏家たちがどのようなアンサンブルを聴かせてくれるのか、期待は募るばかりです。

シューマンの「ダヴィッド同盟」

あらためてご紹介するまでもありませんが、「ダヴィッド同盟」は、今年生誕200年を迎えたロマン派の大作曲家ローベルト・シューマン(1810~1856)が1833年頃に結成した架空のグループです。異教徒ペリシテ人を知と勇気で撃退した旧約聖書の登場人物ダヴィデ(ダヴィッド)にちなみ、俗物に対抗し新しい音楽の理想を打ち立てようと結成しました。シューマンの分身ともいえるフロレスタンやオイゼビウスら同盟員たちが、「音楽新報」などの紙上で盛んな批評活動を行っていくことになるのですが、シューマンは当時の音楽界をどのように見ていたのでしょうか。シューマン自身の言葉から引用してみます。

『いったい当時のドイツ楽壇のありさまは、あまり愉快なものとはいえなかった。舞台には相変わらずロッシェニが君臨していたし、ピアノに上るものといえば、一も二もなくヘルツとヒュンテン^(*)にきまっていた。しかもベートーヴェン、カール・マリア・フォン・ヴェーバー、フランツ・シューベルトらが死んでまだ幾年にもならないというのに、このありさまなのであった。なるほどメンデルスゾーンの星は上り始めて来たし、ポーランド人ショパンの驚くべき天稟についてもいろいろな噂がとりざたされていたけれども、この人たちがより持続的な影響を持つようになったのはまだあとの話だった。そこである日のこと、若い血に燃える人たちの頭に、今はぼん

やり手を束ねて傍観しているべき時ではない、進んで事態を改善し、芸術のポエジーの榮譽をもう一度取り戻そうではないか、という考えがわいてきた。(シューマン著・吉田秀和訳「音楽と音楽家」まえがき、岩波文庫より)

※ Henri Herz (1806-1888)、Franz Hünten (1793-1878)は、当時流行していたサロン作曲家。

作曲家・ピアニストというだけでなく、批評家・文筆家であり、ロマン派の先導者としても活躍することになるシューマンの溢れる情熱と高い理想が、この文章からもうかがえます。さらにシューマンは、同じ文章の中で「ダヴィッド同盟」についても、こう触れています。

『それからここで秘密というも愚か、絶対に正体のわからなかった(というわけは、種を明かせば創立者の頭の中にしか存在していなかった)、ダヴィッド同盟の盟友について一言する。

これはさまざまな芸術観を表現するために、相対立する芸術的な人間をつくりあげてみるのも面白いだろうと思われたのでやったのであるが、そのうち一番活躍するのはフロレスタンとオイゼビウスで、その間に取なし役のラロー先生が介在するという仕組みだった。この連中は「真実と詩」をユーモラスに結びつけながら、全頁を通じて赤い糸のように見え隠れしていた。(同上より)

「ダヴィッド同盟」は、その批評活動を通じて、ベートーヴェンを崇拜の対象にまで高めただけでなく、そのあとを継ぐべきロマン派の優れた作曲家たち(メンデルスゾーン、ショパン、ベルリオーズ、リスト、ブラームスなど)の才能と仕事を正しく評価し、「芸術のポエジーの榮譽をもう一度取り戻そう」としました。一方、低俗な作曲家や批評家に対しては、はげしく、時にはユーモアをもって「こき下ろす」こともありました。(このあたりのシューマンの著述に関しては、先に引用した「音楽と音楽家」をぜひご一読ください。)シューマンがしかけたこのようなペンによる「戦闘」によって、今にその名を残すロマン派の大作曲家たちが、どれほどの力と勇気を与えられたか計り知れません。

時を経て21世紀。シューマンの音楽的理念に共鳴した演奏家たちが、水戸芸術館で「新ダヴィッド同盟」を旗揚げします。すべてに合理性や効率化が優先される現代においては、庄司紗矢香のコメントにも見られるように、演奏家たちもまた時代の急速な流れにのみ込まれかねません。しかし、ここ水戸芸術館においては、大丈夫です。演奏家たちは、雑事を忘れ、必要なだけ時間をかけて音楽づくりに没頭することができるでしょう。「新ダヴィッド同盟」のメンバーたちが徹底的なりハーサルを積み上げた末に響かせる新時代の理想的な音楽表現に、どうぞご期待ください。

充実のプログラム

プログラムは、メンバー全員が意見を出し合った末に決まりました。パリ、ミュンヘン、ニューヨーク、ベルリン、ザルツブルク、そして水戸とい

う世界各地を、Eメールが頻繁に飛び交いました。

まず、ハイドン。庄司紗矢香は、「新ダヴィッド同盟」の話が持ち上がった当初から「古典を一つの骨格にしたいと考えていました。中でもハイドンはクラシック音楽の要諦とも言え、第1回演奏会の1曲目を飾る作曲家として、これほどふさわしい作曲家はありません。その数ある室内楽作品の中から選ばれたのは、〈ピアノ三重奏曲第39番 長調 Hob.XV-25 作品73の2〉。終楽章におかれた軽快な「ジプシー風ロンド」は有名で、40曲以上あるハイドンのピアノ三重奏曲のなかでも特に親しまれている作品です。演奏は、佐藤俊介、石坂団十郎、小菅優の3人が務めます。

2曲目は、ベートーヴェンの〈弦楽三重奏曲 ハ短調 作品9の3〉。弦楽四重奏曲の作曲に向け準備段階に入っていた27歳のベートーヴェンは、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロという3つの弦楽器による作品9の三重奏曲(3曲)で様々な実験を試みます。〈作品9の3〉はとりわけ優れた作品で、この後すぐに作曲される最初の弦楽四重奏曲(作品18の6曲)の充実した世界を予告しています。演奏は、庄司紗矢香、磯村和英、石坂団十郎の3人。

休憩をはさんで後半の1曲目には、新ウィーン楽派からの新しい風をお届けします。ウェーベルンの〈ヴァイオリンとピアノのための4つの小品 作品7〉です。新ウィーン楽派の中でも、ウェーベルンは、作品を極限まで切り詰めた「ミニチュール様式」で知られますが、この作品はその出発点に位置するものの一つです。全体で約5分という短さの中に、密度の濃い音楽がギュッと詰まっています。演奏は、庄司紗矢香と小菅優のデュオ。

演奏会の最後を飾るのは、シューマン〈ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44〉。生誕200年を迎えたこの大作曲家に、「新ダヴィッド同盟」一同が心からのオマージュを捧げます。ロマン派室内楽の傑作中の傑作とも言えるこの作品に、もはや解説は不要でしょう。今望みうる最高の演奏家たちによる極上のアンサンブルで、至福のひとつきを お過ごしください。 〈関根〉



畑中良輔



クリスマス・プレゼント・コンサート2009から

にほんのうたで むかえる 水戸の

● 12/23(木・祝) クリスマス・プレゼント・コンサート 2010

畑中良輔先生の楽しいトーク、そして多彩な出演者とプログラムでお贈りするの、水戸芸術館のクリスマス・プレゼント・コンサートです。今年は例年とちょっと趣向を変えて、私たちのふるさと・日本の歌の数々をたっぷりとお楽しみいただきます。

日本歌曲の歴史と共に歩んだ畑中良輔

皆様よくご存知の畑中良輔先生は、水戸芸術館音楽部門の芸術総監督を務めていただいておりますが、ドイツ・リートやモーツァルトのオペラを日本に紹介した草分けの歌手として活躍されました。その一方で作曲家としての活動もなさっており、東京音楽学校（現・東京芸術大学）では橋本国彦や平井康三郎に師事。終戦の翌年には、柴田南雄、入野義朗、石桁真礼生、中田喜直などと「新声会」を結成し、作品を発表してまいりました。やがて歌手としてオペラや演奏会出演に忙しくなり、じっくり曲想をあたためる時間がなくなったとのことですが、現在までにおよそ50曲の歌曲、20曲の合唱曲、30曲くらいのピアノ曲を作曲しています。こうした畑中先生の歌手と作曲家の両方の活動が、見事に結びついて花開いたのが、日本歌曲の分野だと言えるでしょう。畑中先生は、戦後の日本歌曲の創作・発表の潮流の中に身を置き、多くの作曲家や演奏家たちと交流してきました。そうした日本歌曲の歴史の「当事者」である畑中先生によるトークとプログラムによる演奏会です！このとても貴重な「日本の歌」のコンサートを、どうぞお聴き逃しなく！！

「日本のうた」づくしのプログラム

今回の「日本の歌」のコンサートは4つのステージから構成されています。少しご紹介したいと思います。

[1.花と小鳥と…]

日本の風流と言えば「花鳥風月」ですが、このステージでは「花」と「鳥」を題材にした日本歌曲が集められました。演奏会の幕開けを飾るのは瀧廉太郎作曲の〈花〉。そもそも、「ドレミファソラシド」という音階組織をもつ西洋の音楽理論によって書かれた、日本の芸術歌曲の創作の先駆者が瀧廉太郎でした。1900年に瀧廉太郎が作曲した〈荒城の月〉が、その最初の作品であるとされています。そして、今回演奏される“春のうららの”で有名な〈花〉も、

同じ年に書かれた作品です。瀧廉太郎に続いて、日本の芸術歌曲の確立に役割を果たした作曲家のひとり、山田耕筰です。今回は〈野薔薇〉、〈からたちの花〉などを取り上げます。さらに、このステージでは、中田喜直、多 忠亮、早坂文雄、平井康三郎、成田為三、弘田龍太郎による魅力的な日本歌曲の数々をご紹介します。

[2.うたはおもしろいね、たのしいね!]

このステージでは、レコードや放送などを通して、お茶の間の人気を博した流行歌を中心にお届けします。日本の歌謡曲の第1号と言われているのが、大正時代に流行した中山晋平作曲の〈カチューシャの唄〉です。芸術座の行ったトルストイの『復活』公演の劇中歌として作られ、女優の松井須磨子が歌い、劇そのものの評判とともに大きな話題を集めました。さらに今回の公演では、この〈カチューシャの唄〉に加え、中山晋平が同じく芸術座の公演（ツルゲーネフ『その前夜』）のために書いた〈 Gondolaの唄〉や北原白秋の詩に作曲した〈砂山〉を取り上げます。さらに、大中寅二の〈椰子の実〉、山田耕筰の〈この道〉、成田為三の〈浜辺の歌〉、本居長世の〈通りゃんせ〉など、同時代を過ごした方なら誰しも必ず一度は口ずさんであらう、名曲の数々をお楽しみいただきます。

[3.クリスマス・プレゼント・コーナー]

恒例のプレゼント抽選会！出演者のサイン入りCDなど、色々なプレゼントをご用意しております！

[4.なつかしい童謡・おもいでのアレ唱歌をどか〜んとお届け]

叶うものならもう一度、もどってみたいのが幼き日々です。その懐かしい子供時代への扉を開いてくれるのが、童謡の世界ではないでしょうか。このステージでは、そんな童謡や子供の世界を描いた歌を中心にお贈りします。山田耕筰の〈ベチカ〉、中田喜直の〈もんしろう蝶々のゆうびんやさん〉、〈ちいさい秋みつけた〉、大中恩の〈さっちゃん〉、〈いぬのおまわりさん〉、そして日本の代表的な子守唄のひとつ〈柴の折戸（江戸子守唄）〉。出演者もきっと童心に帰って、楽しいステージが繰り広げられるにちがいないと思います。どうぞご期待ください！

「日本の歌」の魅力を探求し続ける演奏家たち

今回のコンサートには、畑中先生が日本歌曲の魅

力を共に探求し続け、絶大な信頼を置く、関定子さん（ソプラノ）、青山恵子さん（メゾソプラノ）、平良栄一さん（テノール）、竹澤嘉明さん（バリトン）という4人の名歌手とピアニストの塚田佳男さんが出演します。関定子さんはイタリアに学び、低音から超高音までをカバーするドラマティック・コロラトゥーラと呼ばれる声域の持ち主。オペラ、リート、日本歌曲など幅広いジャンルで活躍する歌手です。青山恵子さんは、1987年に声楽の分野では日本初の博士号を「日本歌曲の歌唱法の実践的研究～伝統音楽との接点～」という研究テーマの下で取得。艶やかな声と日本語の美しさから中堅随一との評価を得ている歌手です。平良栄一さんは、イタリアに学び、多くのオペラに出演する一方、宗教曲やリート分野でも活動を行い、小澤征爾、シノーポリ、アシケナージなどと共演しています。2008年には台北国際声楽学会にて日本歌曲史講演、日本歌曲演奏会を務めています。竹澤嘉明さんは、ウィーン留学を経て、わが国のオペラ上演には欠かせない存在として数えきれないほどの舞台を踏む一方で、古典から現代までのあらゆる日本歌曲の演奏をライフワークとしている歌手です。塚田佳男さんは、ピアノ伴奏のスペシャリスト。そして日本歌曲の研究、解釈、伴奏においてわが国の第一人者であると評されているピアニストです。

また、茨城を中心に活躍する優れた演奏家の方々に演奏を披露していただくのも、このクリスマス・プレゼント・コンサートの楽しみのひとつです。今回は、来る11月21日（この原稿は10月末日に書いております）に水戸芸術館で「茨城の演奏家による演奏会企画」としてリサイタルを行う才能溢れるピアニストの井上修さんが登場します。さらに、合唱コンクールの常連校として全国に名を轟かせている名門・水戸第二高等学校コーラス部（指揮：寺門芳子さん）と元気な子供たちの集うNHK水戸児童合唱団（指揮：齋藤由美子さん）が、みずみずしく澄んだ歌声を聴かせてくれます。演奏会の最初と最後には、エントランスホールで、この2つの合唱団がパイプオルガンの伴奏で、恒例のキャロリングも予定しています。オルガンは、東京芸術大学大学院の長田真実さんが演奏します。 〈中村〉



中村真由美



アートタワーみとスターライトファンタジー
第14回クリスマス・コンサートから



水戸の街に響け！
300人の〈第九〉2009 から

SELF

PORTRAIT

中村真由美さんが久々に「ソロ」で登場！演奏者とともに旅する、多彩なピアノ音楽の世界。

■ 12/5(日) 中村真由美 ピアノ・リサイタル

2008年5月、水戸芸術館にてゲルバーによるオール・ベートーヴェン・プログラムのリサイタルがありました。会場で演奏を聴くうちに、私もこのステージでベートーヴェンの〈ソナタ〉を演奏してみたいという想いが、ふつふつと沸き上がってきました。

今回、水戸芸術館で久しぶりのソロリサイタルを開催する機会に恵まれ、ベートーヴェンのソナタの中で私が一番好きな〈ワルトシュタイン〉を、リサ

イタルの幕開けの曲として選びました。続いては、生誕200周年を迎えたショパンの〈ノクターン〉と、彼のピアノ曲における最後の大曲〈幻想ポロネーズ〉です。ベートーヴェンもショパンも、それぞれ〈ワルトシュタイン〉、〈幻想ポロネーズ〉を作曲した時期は、奇しくも心身共に困難な状況下にありました。彼らがどのような想いでこれらの楽曲を創作していったか、出来得る限り心で感じ取り、表現したいと思っています。

さて、後半のプログラムはがらりと空気が変わります。トゥリーナは、アルベニス、ファリャらと共に20世紀を代表するスペインの国民楽派の一人です。パリ留学中フランス印象派の音楽に触れ、それを伝統的なスペインの民族音楽と融合させ、独自の作風を築きました。今回演奏する〈幻想舞曲集〉は、作曲家自身の管弦楽曲の編曲もあり、「熱狂」「夢想」「饗宴」と題したスペイン色溢れる3つの楽章からなる組曲です。スペインの風を皆様へお届けできればと思っています。次はフランス6人組の一人、プー

ランクの小品〈3つのノヴェレツェ〉。フランスのエスプリの効いた私のお気に入りの作品です。

演奏会を締めくくるとバルトークの〈ソナタ〉は、私が初めて水戸芸術館のステージ（茨城の名手・名歌手たち 第3回）で演奏した思い出の曲です。バルトークは、祖国ハンガリーを中心に東ヨーロッパの民謡を収集し、民族音楽の研究者としても知られています。彼のピアノ独奏曲の中でも最大規模をもつこの〈ソナタ〉には、古典的なソナタ形式の中で、彼特有のピアノを打楽器的に使用する手法が用いられ、重厚な和音、多様なリズムの中に民族舞曲風の旋律が現れます。同じソナタでも、ベートーヴェンの〈ソナタ〉とは全く異なる、音とリズムの斬新さを堪能していただければ幸いです。

古典派のソナタで始まり近現代のソナタで終わる、ヨーロッパを巡る音楽の旅へ皆様をご招待いたします。会場でお会いできる事を楽しみにしております。

中村真由美

アートタワーみとスターライトファンタジー

● 12/4(土) 第15回 クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館のタワーや建物、水戸駅前などをライトアップする冬の風物詩「アートタワーみとスターライトファンタジー」。その関連企画として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を発表する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は21校、26団体、およそ900人の子供たちが参加予定で、金管合奏、吹奏楽、器楽、合唱などが披露されます。入場無料です。皆さまのご入場をお待

ちしております。

〔中村〕

〔中学校〕 赤塚中（吹奏楽）、茨城大学附属中（合唱）、茨城大学附属中（吹奏楽）、石川中（吹奏楽）、千波中（吹奏楽）、千波中（ミュージックベル）、第一中（打楽器五重奏）、第三中（吹奏楽）、第四中（吹奏楽）、第五中（吹奏楽）、第五中（ビッグバンド）、常澄中（吹奏楽）、双葉台中（器楽合奏）、双葉台中（吹奏楽）、見川中（吹奏楽）

参加校（順不同）

〔小学校〕 茨城大学附属小（合唱）、内原小（合唱）、五軒小（合唱）、五軒小（吹奏楽）、酒門小（金管合奏）、三の丸小（吹奏楽）、常磐小（吹奏楽）、堀原小（金管合奏）、柳河小（器楽合奏）、吉沢小（金管合奏）、渡里小（金管合奏）

10回目を迎える水戸の〈第九〉。今年も歓喜の歌声が響きます！

● 12/12(日) 水戸の街に響け！ 300人の〈第九〉2010

師走の水戸の風物詩として、皆様に親しんでいた「水戸の街に響け！300人の〈第九〉」。1999年（世紀の変わり目）、2000年（ミレニアム）と節目の時期に開催し、2003年からは毎年開催している水戸芸術館の〈第九〉も、おかげさまで10回目を迎えることができました。

この〈第九〉を、立ち上げの時期から手塩にかけて育ててくださっているのが、鈴木良朝先生（現茨城県合唱連盟名誉理事長）です。1999年と2000年はコーラス指導の責任者を、2003年以降は器楽、独唱

も含めた全体の指揮者を務め、毎年公演を成功に導いてきました。

鈴木先生の長い間にわたる音楽活動から、〈第九〉もすっかり先生の頭の中に収まっていることは、容易に想像できます。しかし、鈴木先生はそこに安住せず、日々スコア（声楽のみならず、オーケストラの全パートも含む総譜）と向き合い、新たな解釈や疑問を見つけ、それを指導の先生方や練習ピアニスト、そして300人のコーラスの皆さんと一緒に考えていきます。ですから、一回一回の練習が、ベートーヴェ

ンの音楽と真剣に向き合い、その創造の高みに一歩ずつ近づくための鍛錬の場となっているのです。

コーラスの皆さんからも、「今年は譜面を見ないで歌えるようにしたい」「ドイツ語の意味をかみしめながら歌えるようになりたい」など、上達をめざす声がたくさん聞かれます。鈴木先生の熱意が、皆さんの向上心を刺激しているのでしょうか。

12月の本番では、また進化した〈第九〉が街に響きます。どうぞご期待ください！

〔関根〕

※出演者など公演の詳細はチラシをご覧ください。

最近の公演から

OCTOBER



1



2



3



4



5



6



7



8

ぐるっぺ・ローゼン〜続・オペラと出逢う日〜 (10月2日)

茨城に縁のある歌手による「ぐるっぺ・ローゼン」の、芸術館2度目の公演。親しみやすい進行役も務めて演奏会をリードした清水良一さんをはじめ、和泉純子さん、清水知子さん、久保田尚子さん、紙谷弘子さん、青地英幸さん、小田川哲也さん、そしてピアノに小林由佳さんという、いずれも全国各地で活躍する実力派が、数々のオペラの名場面を披露した。特に前半、〈ヘンゼルとグレーテル〉では、水戸二高コーラス部の生徒たちの清らかな歌声も加わって盛り上がり、また後半の〈リゴレット〉では、人間の愛憎心理が迫真の演技と歌声で描かれ、「オペラの醍醐味」を満喫して頂ける一夜となった。最後は、お客様の温かい手拍子と共に、〈こうもり〉から“乾杯の歌”。《高巣 アンケートから》●ぜひぜひ来年もやってほしい。数え切れない回数とりはだがたちました。本当にありがとう。(無記名の方) ●オペラを聴く機会が少なく、とても感動しました。お話を読んでくれて、内容がわかって聴くことができました。合唱とても良かったです!涙が出てきました。(無記名の方) ●研鑽をつまえた出演者のすばらしさ。足を運んだ人達に最高の音楽が天から降ってきたという思いです。プログラムの組立も工夫されており、最後〈リゴレット〉で大盛り上がりでした。次回、今から楽しみにしております。(水戸市:T.G.さん)

水戸室内管弦楽団第80回定期演奏会 (10月9日、10日)

世界的オーボエ奏者であり、水戸室内管弦楽団(MCO)メンバーでもあった宮本文昭さんが、「指揮者」として水戸に帰ってきた定期公演。リハーサルでは、かつて共に演奏した、信頼し合う仲間たちと率直に意見をかわしながら、綿密な練習が行われた。本番では、気迫みなぎる指揮ぶりの宮本さんとメンバーが、ハイドン、ショスタコーヴィチ、シューベルト、それぞれから多彩な表情を引き出す秀演!なんと初日には小澤征爾音楽顧問もかけつけ、終演後には、翌日以降の公演に向けて、矢継ぎ早に宮本さんへアドバイスされたとのこと。また今回は、親子向けの演奏会(NHK水戸放送局と共催)と、第2回足利定期演奏会も行った。足利の地を去る間際まで、理想の指揮者像を熱く語り続けていた宮本さん。アンケートでは、そんなマエストロのさらなる挑戦と未来に期待したいという多くの声によせられました!《高巣 アンケートから》●ショスタコーヴィチの室内オケ編曲版の緊張感が紡ぎ出す音楽に、圧倒されました。宮本さんも指揮者として帰ってきて、新たなMCOの未来がみえました。(大阪府吹田市:M.A.さん) ●「ライブの男」宮本さんが帰って来て下さって嬉しい!これからはもっともっと宮本本色を出して「マエストロ・ミヤモト」になって下さい。期待します。(無記名の方) ●大指揮者の登場に立ちあえた思い。FM東京の話などでも、率直

で深い音楽体験に興味のつきない思いだったが、今日の演奏はすごかった。(つくば市:K.E.さん) ●大変素晴らしい。宮本さんが指揮者として大成していくプロセスを間近で見たいので、また招いて下さい。(那珂市:T.K.さん)

アンサンブル奏コンサート(10月24日)

日立市を中心に活動している「アンサンブル奏」が水戸芸術館に初登場しました。高信真由美さん(フルート)、石橋力さん(オーボエ)、坂本沙織さん(クラリネット)、山本浩貴さん(ファゴット)、嵯峨郁恵さん(ホルン)、戸来和子さん(ピアノ)というメンバーで、二重奏から六重奏まで、木管アンサンブルの多彩な魅力を披露しました。ラヴェル〈マ・メール・ロア〉(六重奏版)では、語りの美濃部佑うこさんが加わり、曲の背景となっているお伽の世界に聴衆を導きました。アンコールはラヴェルの〈亡き女王のためのパヴァーヌ〉と〈クープランの墓〉から“リゴドン”(どちらも六重奏版)。《関根アンケートから》●〈マ・メール・ロア〉以外はすべて初めて耳にする曲でしたが、木管特有のなつかしい響きで、素直に楽しむことができました。音色の異なる楽器のとけ合う感じが素敵でした。(無記名の方) ●出演者の息がぴったり。(無記名の方) ●とても美しく優しい音色に癒されました。もっと聴いていたかったくらいです!(無記名の方) ●〈マ・メール・ロア〉が良かったです。美濃部さんの声質が素晴らしい。大きな効果と華を添えてくれ、とても楽しいコラボレーションでした。(無記名の方)

第36回東京芸術大学同声会 茨城支部演奏会 (10月31日)

同声会茨城支部による邦楽の演奏会が開かれた。まずは若き尺八奏者・小林鈴勘さんが登場し、自作のジャズ曲で軽やかにスタート。その後は様々な編成で邦楽の世界をお楽しみいただける曲目が並んだ。特に、尺八の横田鈴琥さんと小林鈴勘さんによる師弟共演(鹿の遠音)は、2本の尺八で陰影に富んだ音の世界を奏でる熱演。また小林名与郁さんや吉田美菜子さんら箏の名手たちも登場し、箏の精妙な表現を存分に聴かせた。最後にはホールステージに、さながら能舞台のように4本柱をたて、独調と大鼓による(井筒)が奏された。普段あまりふれる機会がない邦楽の奥深い味わいを一時に楽しめる貴重な演奏会であった。《高巣 アンケートから》●師が在学中、何度か芸大奏楽堂に邦楽部の演奏を聴きにゆき、黒紋付・袴のカッコ良さどレベルの高さに背筋を正した思いがよみがえります。今日は、あの頃のあこがれと緊張、挑戦していた自分を思い出すために、久しぶりに拝聴しにまいりました。(S.H.さん) ●普段なかなか聴くことができない日本を代表する邦楽をきく機会ができ、素晴らしい演奏で感激いたしました。(水戸市:S.K.さん) ●日本の伝統芸能の良さを存分に味わえた。尺八(鹿の遠音)は特によかったです。(無記名の方)

1~2.ぐるっぺ・ローゼン ~続・オペラと出逢う日~
3~4.水戸室内管弦楽団第80回定期演奏会
5~6.アンサンブル奏コンサート
7~8.第36回東京芸術大学同声会 茨城支部演奏会

information

- チケットに関するお問い合わせ
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間:9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

● ツイッター開設のお知らせ ●

水戸芸術館音楽部門のスタッフによるツイッターを開設しています。
皆様のフォローをお待ちしております。
http://twitter.com/ConcertHall_ATM

チケット・インフォメーション

〈11月27日(土)発売分〉

◎ ちょっとお昼にクラシック

竹原美歌&ルードヴィック・ニルソン(パーカッション)

2011/2/10(木)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200円(1ドリンク付き)

◎ ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル

2011/3/26(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥5,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏
補助…補助席

◎ 茨城の名手・名歌手たち 第21回…11/27(土)自由席○

◎ 中村真由美 ピアノ・リサイタル…12/5(日)自由席○

◎ 新ダヴィッド同盟

第1回演奏会 ……12/22(水)中央×、左右・裏×、補助△

◎ にほんのうたでむかえる

水戸のクリスマス・プレゼント・コンサート2010

……12/23(木・祝)中央×、左右・裏○

◎ ニュー・イヤーズ・コンサート2011

～ウィーン、わが夢の街～ ……1/5(水)中央×、左右・裏○

※11/4(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な12月のスケジュール

コンサートホールATM

■ アートタワーみと スターライトファンタジー

第15回クリスマスコンサート [市内小中学校芸術館コンサート]

12/4(土) 入場無料

■ 中村真由美 ピアノ・リサイタル

12/5(日) 15:00開演

料金(全席自由):一般前売¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

■ 水戸の街に響け! 300人の《第九》

12/12(日) 12:00/13:30(2回公演) 入場無料

■ 水戸芸術館・新専属楽団 新ダヴィッド同盟 第1回演奏会

12/22(水) 18:30開演

料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥4,000

■ にほんのうたでむかえる

水戸のクリスマス・プレゼント・コンサート2010

12/23(木・祝) 17:00開演

料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

エントランスホール

■ バイオルガン プロムナード・コンサート

12月:11日(土)、18日(土)、26日(日)

□ 《クリスマス・スペシャル》

12月18日(土) オルガン:勝山雅世 ソプラノ:松井亜希

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料

※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

■ 語り芝居『夢十夜』

12/5(日) 16:00開演

料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,500 B席¥2,000

現代美術センター

■ 大友良英「アンサンブルズ2010—共振」

11/30(火)～2011年1/16(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで

休館日:月曜日 ※2011年1/10(月・祝)は開館、翌1/11(火)休館

入場料:一般800円、団体(20名以上)600円

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な12月の演奏会 ※有料公演のみ

◆ 佐川文庫 TEL/029(309)5020

■ 荒 絵理子 オーボエ・リサイタル 12/11(土)18:00開演

◆ 茨城県民文化センター 029(241)1166

■ 木村 大 ギター・リサイタル 12/18(土)14:00開演

◆ 水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■ 第36回茨城大学管弦楽団定期演奏会

12/18(土)14:00開演

◆ 水戸市内その他の会場

■ 兼氏規雄 & 兼氏ちな美 エレガントステージ vol.6

12/25(土)16:00開演

会場:水戸プラザホテル チャペルラピュタ

(問)水戸ゾリステン東京オフィス TEL/03(3393)3562

◆ 常陸大宮市文化センター ロゼホール TEL/0295(53)7200

■ 青島広志のおしゃべりクリスマス with ブルーアイランド楽団

12/11(土)18:00開演

◆ ノバホール TEL/029(852)5881

■ アブデル・ラーマン・エル＝バジャ ピアノ・リサイタル

12/1(水)19:00開演

■ 木村 大 ギター・リサイタル 12/4(土)14:00開演

■ 高嶋ちさ子 名曲案内 オーケストラ劇的 Before&After

12/11(土)15:00開演

■ シューマン メモリアル・コンサート 12/22(水)18:30開演

■ つくば市新庁舎開庁記念 つくばで第九2010

ベートーベン交響曲第9番二短調「合唱」

12/30(木)15:00開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」2010年11月発行 第153号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司 [株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…
新春を彩るNYCとMCO